

# Hi!かしま



鹿嶋市国際交流協会

第27号 2011年5月14日発行

「Hi!かしま」発刊にあたり御挨拶申し上げます。

日頃より、鹿嶋市国際交流協会に熱い声援、御協力賜わりまして有難うございます。

本来であれば、新年度スタートの季節ですから明るい話題を申し上げるところですが、今年3月11日に、東北、東関東沖を震源とする巨大地震がありました。この地震により被災された数多くの皆様に心からお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興をお祈り申し上げます。

海外の友人によると「日本の春は、あの美しい桜の開花とともに始まり、年度スタートに花を添えてくれたはずが辛い始まりとなりとても残念です。」とありました。

今私達国際交流協会に課せられた、重要なミッションは、国、行政などが何をしてくれるかをひたすら待ち望むのではなく、私達に何が出来るかを考える時が来たと思います。

昨年度は、記念すべき第10回スピーチコンテストをはじめ数々の行事も皆様方の御支援により滞りなく収める事が出来ました、心から御礼申し上げます。

今年度事業につきましては、今迄以上の明るい建設的な企画をメインテーマとし国際交流の輪を広げてまいりますので御協力お願いいたします。

鹿嶋市国際交流協会会長 溝口 輝明



平成23年2月13日(日)、鹿島勤労文化会館において、「第10回外国人による日本語スピーチコンテスト」を開催しました。コンテストでは、中国、アメリカ、タイ、フィリピン、ネパール、オーストラリアなどの出身者10名が、日本や鹿嶋での生活で感じることや日本と出身国の文化の違いなどを会場に集まった450名の来場者に向けて日本語でスピーチしました。

## ～～出席者感想～～



2月に開催されました「第10回 外国人による日本語スピーチコンテスト」では、審査委員長という大役を授かり、真摯な気持ちで皆さまのスピーチを拝聴させていただきました。コンテストでは、外国人の皆さまから、言葉が通じずに悩んだことや出身国とは異なる料理の味付けに苦労したことなど、言語や慣習の違いに苦心した体験談を聞かせていただきました。しかし、皆さまは、そのような苦境を自分が成長する機会として前向きに捉えており、言語や慣習の壁を越えて交流を図ろうとする姿勢に感心いたしました。

私は、国際社会において大事なことは、様々な国の出身者に、同じ価値観を求めることではなく、異なる文化や価値観を持つ人たちが、互いの違いを認め合い、その上で、協力・強調し合うことだと考えています。また、互いを認め合うということは、相手を知ることだけではなく、自分を知ること、つまりは、日本のこと、鹿嶋のこと、自分自身のことを知ることだと考えております。

会場には、市内の中高生審査員60名を含む約450名の方々にご来場いただいたと伺っておりますが、会場の皆さまにおかれましても、当コンテストは、相手を知るだけでなく、鹿嶋のことや御自身のことを考える貴重な機会となったのではないかと思います。このような機会を与えていただいた国際交流協会の皆さまに深く感謝いたします。

鹿嶋市教育委員会 教育長 大橋 正彦



初めて外国人による日本語スピーチコンテストの審査員を務めさせて頂きましたが、出場された皆さんの日本語が予想を遥かに上回るレベルであったのに正直驚かされました。話の内容も構成も素晴らしく、胸を打たれた話も多かったです。

アメリカのサム・ムーニーさんが、「日本人は中学生から英語を勉強しているから来日した時も心配ないと聞かされていたが、大きなウソでした。」と言われましたが、本当に胸が痛くなりました。

我々日本人が逆に外国に行った時、勿論その国の言葉を勉強するでしょうが、その国の言葉がわからなくても受け入れてくれたらどんなに救われるでしょう。それと同じように、外国の方々が日本に来られた時に彼らが日本語をこんなに勉強して上手に話しているのですから、我々も彼らの言葉や文化を知ってあげる姿勢を持ってあげたら彼らも心強く感じるのではないのでしょうか？

国籍や言葉や文化が異なっても、お互いを知り合う気持ちがあればきっと心が通じ合い、永遠の友達になっていくのではないかと思います。そうした国際交流の場をもっと増やしていければ心も豊かになっていくと思います。

皆さん、お疲れさまでした。この機会が長く続きますことを心よりお祈り申し上げます。



住友金属工業株式会社 鹿島製鉄所  
総務室室長 上 直



「ト伝賞を受賞したアメリカ出身のサム・ムーニーさん」  
この間、スピーチをしたとき、とても緊張していてあまり何も思い出せません。

妻から聞いたんですけど、「結構、受けたよ」と言ってくれました。それはよかったです。

そのスピーチ大会の2、3週間前から、毎晩必ず一回声を出して読みました。毎晩毎晩同じことを聞かせられた妻は僕のスピーチにうんざりしてきたみたいです。僕は、【こんにちは皆さん…】と読み始めると、妻からちょっとしたため息が聞こえてきた感じがしました。正直、「このスピーチは大丈夫かな」とちょっと思えてきました。でも「大丈夫よ」といつも励ましてくれました。

ですから、このスピーチが受けたとしたら、妻にも「お疲れ様」と言いたいです。僕がもらったJUSCOの割引券が僕の感謝の印です。毎晩聞いてくれてありがとうございました。

毎晩聞いてくれてありがとうございました。

☆◆

中国、ネパール、アメリカ、タイ、オーストラリアの皆様の日本語がお上手なことに大変驚きました。しかも 今の若い日本人が使っていない敬語で発表され感心と共に反省させられます。



十名の方々、それぞれの良さのある発表で日本、鹿嶋大好きと言ってくださり嬉しく思いました。今後は皆様と共に勘違いのない対応そして常にスマイル、ユーモア、家族愛、チャレンジの気持ちを大切に響生（ひびき合う心）で日本、そして鹿嶋に永住して下さる事を願っています。

最後に、審査の方々の適切な評価もあり 又 協賛団体、企業の方々のご協力 そして 私たち観客も真剣に耳を傾け感動のひとつとき過ごすことが出来スタッフの皆様のすばらしい企画に感謝と共余韻の残る会でした。

鹿嶋市国際交流協会会員 佐藤 友子

☆◆

第10回 スピーチコンテスト実行委員長 詫摩 岩男



「外国人による日本語スピーチコンテスト」も聴講者 450 名もの大勢の方に御来館頂き、盛大に開催できましたことを、先ずもって各位に厚く御礼申し上げます。そして、発表の当日まで、スピーカーを日夜ご指導くださいました各先生方には重ね重ね厚く御礼申し上げます。又、当日お忙しい中、その審査をお願い頂きました先生方、ト伝賞（若人賞）を審査して頂きました鹿嶋市内の各中学校、高校生（60名）の方々、大変ありがとうございました。

本事業は市内や近隣地域に在住する身近な外国人の人が、日ごろ感じていることを発表し、その考え方や、姿勢に触れる機会を作り、今日グローバル化の進む現代社会において、国際理解を深める上で大変有意義のあることだと思います。

最後に、第10回の節目のスピーチコンテストにご協賛下さいました団体、企業に感謝申し上げ、今後とも、当協会の活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶と致します。

## ★ 国際理解授業：

平成22年11月5日中野東小学校を皮切りに、鉢形小学校、三笠小学校、中野西小学校で多くのゲストティーチャーの協力のもと、国際理解授業を実施した。

児童達は外国の言葉、生活習慣、歌、ゲームなどを教えてもらい、逆に児童たちはゲストティーチャーに日本の茶道、習字、歴史、伝統文化など紹介し、大いに多文化交流を行った。



目を輝かせて、ゲストティーチャーの話の聞く児童たち



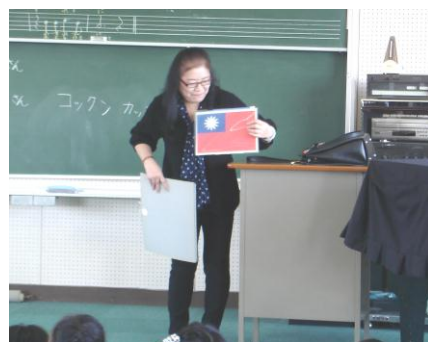
渡辺莉名さん(中国出身)にチャイナドレスを着せてもらいました



児童に浴衣の着付けをしてもらい、ご機嫌の柄津まゆみさん(タイ出身)



茶道は初体験のレーリング ベルナーさん(ドイツ出身)と前蘭ジェニスさん(フィリピン出身)「結構なお手前でした」あとで「ニガイですね」とこっそり言っていました



台湾の言葉、歌やゲームを一生懸命教えている、大村秀子さん



タイ式弁当持参で、ゲストティーチャーデビューをした望月ダヌさん(タイ出身)



韓国についてお話をする、西帰浦市職員の金さんと鹿嶋市職員の砂押京花さん



楽しい授業が終わり、児童たちと記念撮影に収まるゲストティーチャーのみなさん

**会員募集中**

問い合わせ：鹿嶋市国際交流事務局

連絡先：〒314-0034 鹿嶋市鉢形 1527-4 鹿嶋市交流会館 2F

TEL&FAX：0299-82-2241 E-mail：[kokusaikoryu@sopia.or.jp](mailto:kokusaikoryu@sopia.or.jp)

※上記連絡先が不在の場合は、鹿嶋市市役所まちづくり推進課にお問い合わせ下さい：TEL：0299-82-2911 FAX：0299-82-2915